

# 健康と光線

## 睡眠と覚醒の 生体リズム

体内時計が刻む一日の生体リズムを日内リズム、概日リズム、サークルディアノリズムと言いますが、この生体リズムは昼夜（明暗）がない環境で過ごすと、一日は24時間より長い25時間にセツトされます。しかし一日は24時間ですから、私たちの体には朝日で一日の生体リズムを24時間に修正する仕組みが備わっています。朝日が自から入ると光エネルギーが体内時計の中枢の視床下部の視交叉上核を経て松果体に達し、松果体ホルモンのメラトニンの分泌を抑制するのでメラトニンが減少し、生体リズムを覚醒や活動に適したりズムにするのです。この際、体内時計は約15時間後にメラトニンを増やすように設定

されますので、陽が落ちて暗くなる夜になるとメラトニンが増え、睡眠や休息に適した生体リズムが始動します。なお体温には夕刻に最も高くなり、明け方に最低になる生体リズムがありますが、睡眠

と覚醒の生体リズムを補助しています。規則正しい生活が求められます。

## 朝日が作る生体リズム — 24時間周期の体内時計 —

サナモア光線協会  
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

規則正しい生活が求められます。規則正しい生活が求められるのには、一日の生体リズムが正しく時を刻み健康を維持するには、規則正しい生活が求められるのには、一日の生体リズムが正しく時を刻み健康を維持するには、規則正しい生活が求められるのです。

自律神経は昼夜の生体リズムに沿って興奮したり、抑制されたりするのです。

規則正しい生活が求められるのです。

## 生体リズムと 自律神経

自律神経は体温、血圧、心拍、食欲、尿量、酵素、ホルモン、ストレスなど全般の機能を調節

## 生体リズムと ホルモン

ホルモンの多くは生体リズムに沿って分泌されますので、日内変動があります。例えば体温を高め、活動体勢を整える作用があるコルチゾール（副腎皮質

ステロイドホルモン）は、それに適した生体リズムを作るため、副腎皮質から睡眠の後半の夜明け前に大量に放出されますので、一日のうち朝高く夜低いという日内変動があります。また身体の成長・修復に欠かせない成長ホルモンは、寝る子は育つという諺の通りに夜間深い眠りにつく午後10時～午前2時頃の睡眠中に脳下垂体前葉から分泌されますので、充分な睡眠をとる必要があります。なおホルモンの乱れは体全体の乱れにつながるので注意しなければなりません。



平成二十五年 元旦

株 東京光線療法研究所  
サナモア光線治療院

（五日より営業します）

発行所  
〒153-0063  
東京都目黒区目黒  
4-6-18  
サナモア光線協会  
年4回発行  
会費年500円  
電話 東京(03)  
3793-5281  
3712-5322

# 一病息災

# 一病息災

# めまいを起こす病気

サンモア光線治療院

院長 医学博士 宇都宮 正範

私たちには、普段の日常生活において、まっすぐに立ち上がり、ふらつといことなく歩くことは、当然のことと思っています。しかし、身体にバランスを保つ仕組みが備わっているからこそで、きるのであって、この平衡機能に関係した器官が協力して、初めて成り立つののです。ヒトの平衡機能は、視覚(目)、前庭器(耳)、深部感覚刺激(足の裏)という三か所の感覚器官から集まる情報を、小脳が集約し、その情報を大脑が統括することによって保たれていますが、特に重要な働き

## バランスを取る仕組み —平衡機能—

めまいという自覚症状は、比較的多い訴えの一つですが、一言でめまいと言つても、訴え方は様々です。視界がぐるぐる回る回転性のめまい、体が揺れているように感じる動搖性のめまい、立ち上がった時にフワッとする立ちくらみなど、幾つかのパターンがありますが、ほとんどのめまいは、平衡機能の障害によって起こります。

## 前庭器の構造

内耳は聴覚をつかさどる蝸牛と、平衡機能をつかさどる三半規管と耳石器から成り立ち、後者の二つを合わせて前庭器と呼びます。三半規管は、主に、頭や体の動き、回転速度を感じ、耳石器は、体の傾き具合や直線

た時、振り向いた時などに起り、数十秒から数分でおさまるのが一般的です。耳石器に付いている耳石が、頭部打撲、交通事故、慢性中耳炎、寝たきり等によって剥がれ、三半規管の中に入りこみ、耳石が三半規管のリンパ液の中を移動することによって、異常な情報が脳に伝えられて起るとされます。

めまいと光線療法

●椎骨・脳底動脈循環不全症  
小脳に血液を送る椎骨動脈と  
脳底動脈の障害から血液循環に  
問題を生じ、結果的にめまいを  
生じます。

- **加齢性平衡障害**

ウイルスが再活性化し、顔面神経と内耳神経に障害を起こすことによって、めまいをきたします。
- **椎骨・脳底動脈循環不全症**

寝たきりの状態に陥ると、耳、目、足裏から刺激が伝わらず、平衡機能が低下するため、めまいを誘発します。
- **めまいと光線療法**

めまいの改善には、食事や睡眠を含む生活のリズムを整えることが大切で、時には、めまいのリハビリ療法が有効です。サナモア光線療法は、心身をリラックスさせ、内耳における血液循環を改善し良好に保つため、めまいには効果的です。もし繰り返すめまいで悩まれている方は、全身照射に加え、側頭部から後頭部にかけての照射をお試しください。

謹  
賀  
新  
年

明けましておめでとうございます。今年は巳年です。ギリシャ神話において、ヘビは生命力の象徴であり、一匹のヘビが杖に巻きついたモチーフは「アスクレピオスの杖」と呼ばれ、医療、

ます。今年は巳年です。ギリシャ神話において、ヘビは生命力の象徴であり、一匹のヘビが杖に巻きついたモチーフは「アスクレピオスの杖」と呼ばれ、医療、

医療のシンボルで、世界保健機関のマークにも使用されています。巳年を迎え、今年もサナモア光線治療院では、一人一人が



# サ/ナ/モ/ア/便/り

vol.52 宇都宮 正範

もつ自然治癒力を高め、多くの方々の健康増進に寄与できるよう頑張りたいと考えております。

## 第十八期 サナモア光線治療師 養成講座のお知らせ

本年も、サナモア光線治療師養成講座を六月末に開講する予定でありますので、光線治療院の開業をご検討されている方やサナモア光線療法について勉強したいとお考えの方は、サナ

モア光線治療院（〇三一五七五九一三七一〇）までご連絡下さい。

なお、講座日程等の詳細につきましては、次号に掲載させて頂きます。

ます。

現在、多くの方が、サナモア光線治療院に来られています。全身照射の体験目的の方、自宅での治療を補完する目的で月に一回程度来られる方、治療院での治療を主とし週に数回来られる方など様々ですが、その方々の貴重なご意見やご感想を、「受診者の声」として掲載致します。

右肩の痛みと右腕の拳上が困難となつたため、自宅でサナモアを始めましたが、思うように改善しないため、光線治療院の全身照射を集中的に行つた方が効果的でないかと考えて来院しました。治療院では、一度に複数の治療器を使用するため、体の温まり前後から、はさみ込み照射する、かなり痛みは和らぎます。自宅治療と並行して、治療院での治療を開始したところ、約一か月

本症例のように、自宅治療と治療院の全身照射を組み合わせることにより、治療効果を高めることができます。自宅での治療で、思うような効果が上がらない方は、サナモア光線治療院での治療を併用することを推奨いたします。

場所：サナモア光線治療院  
三階会議室

日時：四月二十日(土)  
午後二時三〇分

医療に関連した話題の講演や治験例の報告を中心とした研究会を開催していますので、一般の愛用者の方も是非ご参加下さい。なお参加は無料です。

第三十八回  
「光と熱研究会」  
のお知らせ

## ◆募集◆

### サナモア光線治療師

当協会の趣意に賛同され、  
サナモア光線療法の普及に  
ご協力頂ける方、治療院の  
開業を検討なさりたい方は、  
お問い合わせください

サナモア光線治療院  
〒153-0063  
東京都目黒区目黒1-23-11  
TEL (03) 5759-3710  
FAX (03) 5759-3720

NHKテレビ

平成24年10月3日放映

太陽は大事ですね

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

## 日光浴の勧め

生命を育んだ太陽光線を人工的に再現して治療に応用するサナモア光線療法の啓蒙、普及を目的に発刊している本紙の紙上で、これまで太陽光線の大恩についてさまざまな角度から記述しました。中でも紫外線・UV (ultraviolet rays) によって生成されるビタミンDについては、ビタミンD不足が如何に健康に悪影響をもたらすか繰り返し記載しました。

しかし昨今、化粧品メーカーが販売する日焼け止め(サンスクリーン)の宣伝効果もあって、紫外線はお肌の大敵でシミ・シ

Vケアを行って美白を保つことが肝要と考える人が多数を占めるようになった気がします。昔前、日光浴は健康の源と信じていた時代と異なり、本紙の紙面で私が日光浴やビタミンDの必要性を説いても、所詮は鱗の歯軋り（はさみ）（力のない者が憤慨し悔しがること）と自嘲するしかないと感じました。

ところがNHKテレビが平成24年10月3日に放映した「ためしてガッテン」で、シミやシワを作りたくないと年間を通してしっかりUVケアをして紫外線を遮断するV

クになることを指摘して日光浴足して、さまざま病気のリスクになることを勧めたのです。強い影響力を持つNHKが全国放送で日光浴を勧めたのですから、わが意を得た思いです。それでここに私見を加味して、「ためしてガッテン」の放送内容を再録する」としました。

クララ病

「ためしてガッテン」の放送は、スイスの作家ヨハンナ・ショピリが1880年から1881年に執筆したアルプスの少女ハイジに登場する親友のクララの病氣から始まりました。クララは大都会のフランクフルトに住んでいましたが、自力では立つことも歩くこともできないため、一日中家の中で閑じこもって重椅子で暮らしていました。そのクララがハイジに会うためスイスアルプスにあるハイジの村にやって来て、立って歩けるようになつたのです。原作にはクラ

ラの病気の病名は書かれていたため、「ためしてガッテン」では、クララ病と呼ぶことにすると言つていました。その上で、クララ病はある物質の不足が原因で起つる〇〇〇〇〇〇欠乏症で、19世紀に世界中で大流行したと言つていました。

クララ病で不足するある物質は20世紀初頭に明らかにされ、クララ病の病名もその物質の欠乏症と名付けられましたが、原作が書かれた19世紀には不足する物質は未解明で、クララがハジと食べたチーズ、黒パン、ヤギの乳には含まれていません。またクララ病が大流行したのは世界中でなく、イギリスの都市部を中心にヨーロッパの都市です。

さて次に現在の医学知識でクララ病を解説すると、不足する物質はビタミンDで、クララが罹つた病気はビタミンD欠乏症により引き起つられたクル病ですが、原作が書かれた19世紀にはビタミンDは発見されており

線を浴びないと不足してビタミンD欠乏症を起こすことに気付いていなかつたのです。そしてクル病が19世紀にイギリスの都巿部やクララが暮らしていたフランクフルトのようなヨーロッパの都市で猛威を振るつたのは、産業革命がもたらした大気汚染により紫外線が遮られたためですが、よもや大気汚染により紫外線が遮られると病気になるとは考えなかつたため、クララ病は長い間治療法のない奇病として放置されたのです。

クララが患つていたクララ病が治つたのは、クララがハイジに会つたため太陽光線に恵まれ、大気汚染と無縁な日光浴をするのに適した環境が整つたハイジの村に来て、日光浴をしてビタミンDの不足を補つたためですが、原作が書かれた時点では日光浴でクララ病が治る可能性を指摘した研究者はいましたが、医学界では正式に認められてい

(四ページからつづく)  
なかったのですから、原作者の  
クララ病に対する觀察眼は見事  
です。なお19世紀の日本は、産  
業革命とは縁遠い農業国だったので、クララ病が流行した記録  
はありません。

足腰アラフテ病

「ガツテン」の主眼は、19世紀にヨーロッパの都市部で流行したクララ病と同様な症状を呈するクララ病予備軍を足腰フラフラ病と命名し、足腰フラフラ病が現代の日本人女性で増加していくことを知らせて注意を喚起する必要があります。すなつらせば

ることです。幸運な方2人だけが、立長寿医療研究センターに転倒して入院する高齢者が後を絶たない。女性2人に1人がビタミンD不足の危険領域にある足腰フラフ病に罹っていると放送で伝えられたのです。

これに関連して、愛知県の国

ない」と伝える映像で、映出された高齢者は年のせいでもないと諦めていましたが、センターの原田敦副院長はビミンDの不足で足腰フラフランになつたため足の筋肉に力がなくなり、バランスが取れくなつて転倒すると言つてました。またビタミンD欠乏症罹患した子供が意識もろいつなつて、白目をむいて、手足つっぱつてカクカク震えて、映像が映し出されていましたが母親が栄養には細心の注意を払っていたのに何故、と疑問を呈

を挙げました。その一方で、ビタミンDの不足を放置すると、免疫、代謝機能などの機能が低下し、ガン、糖尿病、認知症、筋肉に力が入らず筋力がなくなったり骨粗しそう症になるため転倒して骨折し、寝たきりになるリスクが高まる」と述べています。

ミ・シワの原因として敵視する時流が背景にあって、UVケープをし過ぎるのが原因と断じて、ます。なおビタミンDはサケ、マグロ、シラスのような魚や、ノコ、干しエノキのような食料からも取れます。大半は紫線を浴びて皮膚で作る必要があるため、屋外で過ごす時間が長いビタミンD欠乏症になる警鐘を鳴らしています。

ミ・シワの原因として敵視する時流が背景にあって、UVケープをし過ぎるのが原因と断じてます。なおビタミンDはサケ、マグロ、シラスのような魚やノコ、干しエノキのような食事からも取れます。大半は紫線を浴びて皮膚で作る必要があるため、屋外で過ごす時間がいとビタミンD欠乏症になる警鐘を鳴らしています。

この場面に神戸薬科大学の野登志夫教授がビタミンDの威力として出演し、太陽の贈り物のビタミンDを生成する独自日光浴の仕方を伝授してくれました。先生は日に当たるすべの部位に日焼け止めを塗って、手を洗って手のひらの日焼止めを洗い流し、屋外に出て手のひらを太陽に向け、夏場で15分以上、冬場で30分以上、手のひらに日光を浴びる手のひらを日光浴を推奨し、これで充なビタミンDが出来ると言わたのです。加えて手のひらはラニン色素が少なく日焼けし

UVケアのし過ぎ

UVケアのし過ぎを指摘されました。

ないことを伝える映像で、映出された高齢者は年のせいではないと諦めていましたが、センターの原田敦副院長はビタミンDの不足で足腰フラフラになつたため足の筋肉に力がなくなり、バランスが取れくなつて転倒すると言つて、した。またビタミンD欠乏症罹患した子供が意識もうろうなつて、白目をむいて、手足つっぱつてガクガク震えてい映像が映し出されました。母親が栄養には細心の注意を払ってきたのに何故、と疑問を呈っていたのが印象的でした。

を挙げました。その一方で、ビタミンDの不足を放置すると、免疫、代謝機能などの機能が低下し、ガン、糖尿病、認知症、筋肉に力が入らず筋力がなくなったり骨粗しょう症になるため転倒して骨折し、寝たきりになるリスクが高まる」と述べていました。

ここでは大阪府立母子保健総合医療センターの道上敏美先生が出演され、ビタミンDについて解説されたのですが、ビタミンDは母乳に含まれないため母乳栄養の赤ちゃんは適度の日光浴が必要なこと、高齢者は活動量が減り家にこもるためビタミンD不足を起こしやすいこと、ビタミンD不足があると直腸ガンは男性で10倍、女性で3倍になると、糖尿病が多発すること、指摘されました。

ミ・シワの原因として敵視する時流が背景にあって、UVケープをし過ぎるのが原因と断じてます。なおビタミンDはサケ、マグロ、シラスのような魚やノコ、干しエノキのような食事からも取れます。大半は紫線を浴びて皮膚で作る必要があるため、屋外で過ごす時間がいとビタミンD欠乏症になる警鐘を鳴らしています。

この場面に神戸薬科大学の野登志夫教授がビタミンDの威力として出演し、太陽の贈り物のビタミンDを生成する独自日光浴の仕方を伝授してくれました。先生は日に当たるすべの部位に日焼け止めを塗って、手を洗って手のひらの日焼止めを洗い流し、屋外に出て手のひらを太陽に向け、夏場で15分以上、冬場で30分以上、手のひらに日光を浴びる手のひらを日光浴を推奨し、これで充なビタミンDが出来ると言わたのです。加えて手のひらはラニン色素が少なく日焼けし

いのでビタミンDが効率的に作られ、お肌の大敵のシミやシワを気にしなくて良い部分と述べています。しかしこの日光浴は手間隙かかり過ぎるので、美白を求める女性なら日光浴をしない方を選ぶと思います。

絶対に必要なビタミンDを補うには、私なら日焼け止めは使わずに顔や手を露出して、夏場なら15分以上、冬場で30分以上、屋外で日光浴をすることを勧めます。シミやシワが気になる中高年女性が美白にこだわって足腰フラフラ病になるより、日々焼けしても足腰が丈夫な方が良いと思いませんか。私が若い頃、シミは老人性色素斑、シワは老人性皮膚萎縮症と病名があり、原因は加齢だったのですが、日焼け止めが売られるようになってから紫外線のせいになったのです。「ためしてガッテン」で最後に言っていたように、大事なお天道様に当たらないでお転倒様になつて骨折では様にななりません。



体験例報告

## 長期ステロイド療法からの離脱体験

花巻市 菊池 隆春氏報告

私は、纏までサナモアを知り、この治療法を最後にしようと決断しました。生れつき湿疹がある私は、これまで、我慢のできない痒みと痛みに三十年以上も悩まされ続けています。飲み薬、塗り薬、注射、健康食品、電位治療器、高気圧酸素、デトックス、整体、温泉、ドクダミ療法、水泳、気功等ありとあらゆる治療を体験しました。しかし、完治どころか、ますます、皮膚は醜くなつて、ステロイド剤なしには、耐えられない身体になつてしましました。私は、サナモアと言う言葉すら、聞いたことはありませんでしたが、信頼する方からの完治するひしたら、サナモア光線療法しかないといふ言葉に、かけてみることにしました。

もあり、リバウンド覚悟で、ステロイドを止め、解毒療法であるサンモア光線療法を選択しました。治療は、鼠径部周辺と耳を重点とした全身照射で始まりました。6月は草刈等の農作業が、一日一時間位しか出来ませんでしたが、7月、8月は、二時間くらいできるようになりました。9月は、オートバックスでの商品搬入と棚への商品設置作業、岩手県知事・県議会議員選挙投票事務の計二日間の仕事ができるまでに回復しました。ただ10月になると、予想をはるかに超えるリバウンドが始まり、35度だった体温が36度を超え、身体が火照り、激しい痒みで、血と膿が噴き出すようになり、通常は二時間だった治療を、自宅で毎日四時間以上行うようになりました。サンモアを照射しないと鼠径部周辺から足首まで、血膿が口ウの様に固まってしまいます。激しい痒みでたまりません。11月になると、皮がむけて、

12月は、思いだしたくない程  
最もリバウンドが激しい月でし  
た。まるで寝たきりの廢人状態  
になり、床ずれができて、サナ  
モアを照射すると激痛で、毎日  
一時間しかできなくなりました。  
食事は痛みと痒みで、食器をひつ  
くり返してしまっため、食べ終  
わるのに約三時間かかりました。  
風呂に入るごとにむけた皮と油で  
湯船のお湯が、すぐ汚れてしま  
います。水圧さえも激痛なので、  
波をたてずに固まっている状態  
で、風呂からあがると、自分が  
歩く風圧さえも痛く感じました。  
歩くと下着との摩擦でこられる  
ため、痛くて足が前に出ません。  
眠れず一晩に三回以上、跳ね起  
き、その都度一時間は搔きむし  
りました。まるで被爆して皮が  
焼け落ちたような状態なので、  
何度も自分の首を絞めたり、頭  
を拳で殴ったりして、痛みを紛  
らわすことも度々でした。とに  
かく、万力で頭部をしめあげら  
れ、溶岩を流されたような灼熱  
感と激痛で、身体は、てんぷら  
で出来るくらいしか動けなくな  
りました。

## サナモアカーボンの 類似品にご注意下さい

サナモアA(緑印)、B(赤印)、C(青印)、D(黄印) カーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともどもご愛用者各位の御信頼を戴き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことはご存じの通りです。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、当研究所が独自に広めたカーボンの呼び名のA、B、C、Dや緑印、赤印、青印、黄印を勝手に流用したり、あたかもサナモアと同じと見せ掛けて販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる人をあざむく行為は断じて許されるものではありませんが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任は持てませんので呉々もご注意下さい。

なおカーボンについて疑問の点がありましたらお問い合わせ下さい。

(株)東京光線療法研究所

油をかけられたように熱く冷たい海に飛び込みたい気分で、そばに拳銃があつたら撃つていたかもしれない程、追い詰められた精神状態でした。毎朝、目覚めると、下着は血と膿とむけた皮でぐちゃぐちゃで、両耳は膿で完全に塞がって、痛痒い状態で、耳かきで膿をすべて取り除きます。排便時は、しゃがむだけでも、傷口がひっぱられ、飛び上がるんばかりの激痛が走ります。この時ばかりは、何も

役にたたず、生まれてきてごめんの心境でした。平成24年1月、自宅でサナモアを毎日三時間かけられるまで、痛みは和らいできました。2月は体温が、35度に戻り、首を絞めたくなる程の痛みからは解放されました。F太陽光線治療院でサナモア照射中に、現実なんか夢なのか、光に包まれる体験をした直後、三時間程ではありますか、無痛状態になり、感謝の涙が止まらなくなりました。

3月は、1月に逆戻りしたように、痛みと痒みが強く、ひたすら忍耐でした。4月は、サナモアを毎日四時間かけらるるまでに痛みが和らぎ、一進一退のなにいましたが、5月になると、約4kmの散歩ができるようになりました。

6月は、下痢にもなりましたが、痛みに耐えながら自分の足で5km程度は走れるようになりました。感謝で涙が止まりませんでした。7月は下痢が頻回で、緑色や黒色の便が便器から溢れる程になりましたが、徐々に、量も少なくなり、排便時の痛みも和らいできました。まるで、三十年以上使用したステロイドを排泄しているような感覚でした。8月も下痢15回。この頃、サナモアを照射すると、皮膚から黒い油汗が出るようになり、苦痛だったサナモアが、とても気持ち良く感じられるようになりました。9月は下痢8回。徐々に皮膚の状態が良くなつきました。

10月は下痢の回数も減り、10km走れるようになりました。以前とは違い、体温が36度を超えて、痒み痛みが少なくなったしました。一人になった車や布団の

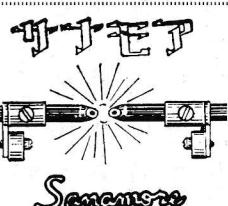
中で、歓喜の涙が何度も溢れましたが、その都度、目からステロイド軟膏のような物質が出て、痒みが軽減していきました。本当にありがたかったです。11月は下痢2回。一日五時間、農作業ができるまでになりました。通院を三日連続で休んでも、痒み痛みを我慢できるまで回復しました。サナモアと出会ってから約五百日ですが、ようやく治療する前よりも良くなつてきました。完全復帰までは、それなりの期間、治療が続くと思いますが、真っ暗闇から一筋の光明が差してきました。

Y先生、そして一緒に治療に励んでいた皆様方に深く感謝しております。手作りの自然食弁当、「自身のサナモア体験談、薬物療法体験談、民間療法体験談、ひたむきに病氣に立ち向かう不屈の精神、前向きなアドバイス等、家族のような絆で結ばれた人達に支えられて、ここまで来ることができました。自分

に感動致しました。もちろん、掃除、料理、洗濯、金銭面で応

援してくれた家族にも、この場をかりて深くお礼申し上げます。今回の経験を通して、ステロイドの恐ろしさを一人でも多くの人に伝えることは、身をもつて体験した私にしか出来ない使命だと悟り、投稿する決意をするに至りました。ステロイド軟膏依存症で苦しむ皆様方に伝えたいと思います。医療従事者の方々におかれましても、脱ステロイド療法で孤軍奮闘している方が少なからずおられるのは、大変心強い限りです。

世界中の痒みに苦しむ方々に、サナモア光線療法を軸に治療効果のある民間療法を精査し発信する」ことが必要だと実感し、微力ながらお手伝いさせて頂きます。



サナモア光線協会

趣意書

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、一、季刊紙、「健康と光線」の発行二、サナモア光線治療師の募集と育成の事業を行います。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

「健康と光線」の購読者を募集します。  
また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

〒153-0063  
東京都目黒区目黒4-6-18

(本紙の無断転用を禁止します。)